石川県庁における「行動変容としてのDX」に向けて（はじめの一歩）

DXは、①職員一人ひとりの「機動力」を高め、②「多様な能力の組み合わせ」を実現する手段

（たとえば）

・**「職員が現場に出る機動力」**を高め、**「庁内の会議や意思決定」**にもしっかり対応

→幹部もレク者も、会議・ヒアの「ハイブリッド化」の徹底、リモート参加を歓迎する組織文化

・**「家庭事情や健康事情」などに応じ**、柔軟に働く場所を組み合わせられる

→リモートワークをする人に「引け目」「負い目」を感じさせない組織文化

・**「互いの時間」を大事に**、素早く予定を組み合わせ、アイドリングの時間をなくす

→電子決裁率100%、待ち時間を削減、予定表システム徹底活用で日程調整事務を削減

自宅でも　　移動中でも

県幹部の強いリードで進める以外にはない（政府でも、ここで“省庁間格差”が如実に現れた）

⇒「職員の多様な力」を最大限に発揮いただくためには、

「型の多様性」（部局ごとのローカル・ルール）を最小限にすることがカギ。

今後、知事・副知事とともに
“共通の型”をデジタル推進監室から提示します

⇒「行動変容としてのDX」に向け、まずは新しい“共通の型”にハマろう（Fit to Standard）

（例）「レクの時に説明者がその場に居ないなんてありえないよ」（？）

「やはり重要事項は、常に、顔と顔を突き合わせてさ」（？）　など